



菜の花

発行 独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町 4145 番地
TEL 0993-22-2231 (代表)
0993-22-2230 (ダイヤルイン)
URL <http://www.hosp.go.jp/~ibusuki/>
印刷 陽文社印刷株式会社

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER

平成 27 年 新年号

新年のあいさつ

院長 田中 康博

新年明けましておめでとうございます。昨年は温暖化のせいでしょうか、豪雨、洪水、巨大化する台風などの異常気象が通常気象になってしまったような一年でした。指宿でもがけ崩れによる特急指宿たまたまはこの脱線事故がありました。大きな災害にならず、不幸中の幸いでした。さて、地域医療は病院完結型から地域完結型へ転換が叫ばれるようになってきていました。指宿医療センターは地域高度医療、地域救急医療の中核として高い意識を持ちながら運営を行っており地域完結型の一翼を担いたいと考えています。救急患者受け入れ件数、救急車出動に対する当院搬入率など年々確実に増加してきています。医師会、救急隊と協力しながらいわゆる「たらい回し」のない地域になってきているようです。さらに昨年は小児科、産婦人科医師の増員が実現し、成育医療の充実化も実現できました。協力を頂きました各関係者に感謝するとともに今後とも安心して赤ちゃんが生まれる社会、安心して子育てができる社会を目指し、協力したいと思っています。指宿医療圏は鹿児島県の厳しい地域医療の中では、幸いにも昨年、医療環境が充実された特異な地域になっており、指宿が地域医療のモデルの一つになってもらいたいものです。

以上のような実績が認められ、当院の念願であった病院建替えの許可が出ました。今回は病棟、救急部、手術室、透析室、内視鏡室、栄養管理などの治療部門ですが、機能的でかつ指宿らしい施設にしたいと思っています。現在の病棟が40年経過し、老朽化が進んでいましたが、快適な入院生活を提供できるようになると思います。現在、建替え工事の準備に入っています。順調に経過して平成28年9月完成を目指しています。工事期間中ご迷惑をお掛けするかもしれませんが、ご理解の程よろしく願いいたします。

平成27年4月からは新たに眼科を新設します。眼科手術、基礎疾患を有する眼疾患の患者さんが対象で当院の内科スタッフとチームを作りながら安心して目の治療が受けられるようにしたいと思っています。南薩地域住民の新設希望診療科の第1位であった眼科を開設できますことは我々の目指す役立つ病院に合致しており今後の発展を期待しています。

当院は急性期治療が中心で、充実した看護体制(7:1)を提供していますが、地域では高齢化社会に対応すべく療養、介護、在宅医療にも力を入れなければならないと感じています。国立病院機構としては直接、運営ができる分野では有りませんが、医療から療養、介護への橋渡しをスムーズに行う為のサポートは可能です。この試みはもちろん指宿で開業されている全施設の協力を頂きながら、患者さん、住民のために良い形の医療、療養、介護、在宅それに養護を提供しなくてはなりません。そして指宿は住みやすい良い町だと言われるようにならなくてはなりません。いろいろな問題もあるかもしれませんが、住民全員が高い志を持って良いシステムを作りたいものです。高齢化が進む観光の街、指宿の使命でもあり、住みたいまちNo1になってもらいたいものです。話が大きくなりましたが、夢が夢でなくなるよう新しい形を模索する一年になる事でしょう。今年も一年頑張っていくと思っております。よろしく願いいたします。



眼科開設のお知らせ

平成27年4月より眼科を開設することになりました。

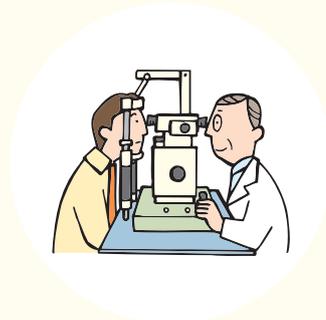
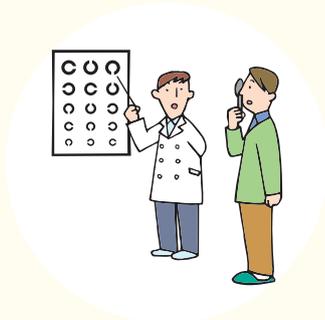
私たち人間は、外界からの情報の80%以上は眼から得るといわれています。平均寿命が延びている現在、一生涯において“みる・みえる”はとても重要な機能です。

眼科は、その眼に関する検査、診察および治療を行う診療科であります。眼科で扱う主な疾患には、屈折異常（遠視、近視、乱視）、白内障、緑内障、ドライアイ、アレルギー性結膜炎、網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症などがあります。

これら疾患に対して当院眼科では診療を行い、レーザー治療や硝子体注射治療、手術では白内障手術を中心に、硝子体手術治療を行っていく予定です。また、鹿児島大学病院、鹿児島市立病院の眼科と連携を図り、様々な眼疾患の診療等が可能です。

主な治療・手術内容

- ・虹彩光凝固術
- ・網膜光凝固術
- ・硝子体注入・吸引術
- ・硝子体切除術
- ・硝子体茎頭顕微鏡下離断術
- ・増殖性硝子体網膜症手術
- ・水晶体再建術
- ・後発白内障手術
- ・硝子体置換術



新任医師の挨拶

産婦人科医師 庄野 真由美

10月から産婦人科で勤務することとなりました庄野真由美です。鹿児島での勤務は初めてですが、自然豊かで食物の美味しい恵まれた環境であることを実感しています。

産婦人科は女性の一生に関わる科です。産科医療においては、指宿の豊かな環境の中で皆様が安心安全に妊娠出産できるよう努力し、地域周産期医療の危機的状況の一助となれたらと思います。婦人科医療においては、地域女性の生活と健康を守るために、相談しやすい外来、スムーズな診断と加療提供を目指します。

微力ではありますが、よろしくお願いいたします。

指宿 菜の花通信

No.64

総合内科医師 中村一彦

田舎医者流儀 (36)・・・ささやかな事

今日(1/31)は朝から雨が降っている。JR指宿駅でタクシーに乗り、病院に向かう。顔見知りの運転手が午前中は雨らしいと言う。7時30分頃、小学校の前を通る。校門前の横断歩道で、いつものように子供たちを誘導し、迎える人がいる。運転手によると、この小学校の校長先生らしい。かなりの豪雨、寒さ、暑さに関係なくその姿がある。何時からか記憶にないが、数年は続いている。こんな校長先生のいる学校で学ぶ子供たちは幸せだね。



私が20数年前、前任の病院に赴任した時、どういうわけか、歓迎されなかった。循環器内科は既にあるのに、もう一つ循環器内科が出来ることに違和感があったのだろう。心エコーの検査は週一回昼からのみ、17:00以降使う時、検査の途中であっても他のグループが使うときは直ちに明け渡す、心カテの検査は週一日、それもしかるべき医長の許可を得ること等々いろいろ制限をかけられた。

赴任して4日目、心不全の患者さんなど3名の入院があった。病棟に上がって行くと、看護師から「心電計もない、除細動器もない病棟に心臓病患者を入れて、急変でもあったらどう責任を取るのですか」と厳しい口調で言われた。もっともな話であった。事務方に行き、会計課長さんに「診療するための、機器を早急にそろえて欲しい」と話した。しかし、「今年はもう予算がありません」と冷たい対応であった。「事故が起こり、不幸な結果になり、裁判にでもなったら、私は患者さん側の証人になりますよ」と憎まれ口をたたき以外に策はなかった。

四面楚歌の病院で、真っ先に私どもを支持したのは病院の掃除をする人や看護助手の人達であった。何のことはない、私は人と会ったら自分から挨拶をする習慣があった。廊下、エレベーターで顔を合わせるとこちらから「おはようございます、こんにちは」と声をかけていた。特別なことではなく、当たり前の事である。彼女らは「今度来た先生は自分から挨拶されるよ」と言っていたという。それまで挨拶しても、返してもらえず、なんだか無視されたようで悔しい思いをすることが多かったらしい。

イスラム過激派組織「イスラム国」(IS)に捕えられていた日本人ジャーナリストが殺害された。なんで、人の命をもてあそぶのか残念でならない。イスラムの人、アフリカの人、欧米人等々が「やあー」と声を掛け合い、お互いを尊重する対等平等の関係を築いていく、そんな積み重ねこそ大事ではなからうかと思う。

第8回指宿医療センター健康フェスタの開催について

庶務班長 黒木 嘉文

平成26年9月21日(日)に第8回指宿医療センター健康フェスタを開催しました。例年、健康フェスタは病院で開催していましたが、今回は病棟の建て替えが決定したこともあり、ハード面での見通しが立ったことから、さらに地域住民の方々及び医療関係者との信頼関係の構築というソフト面を強固にするため、初めて指宿市民会館で健康フェスタに加えて市民公開講座を行いました。生憎の雨模様であったが、例年の2倍ほどの122名の参加がありました。

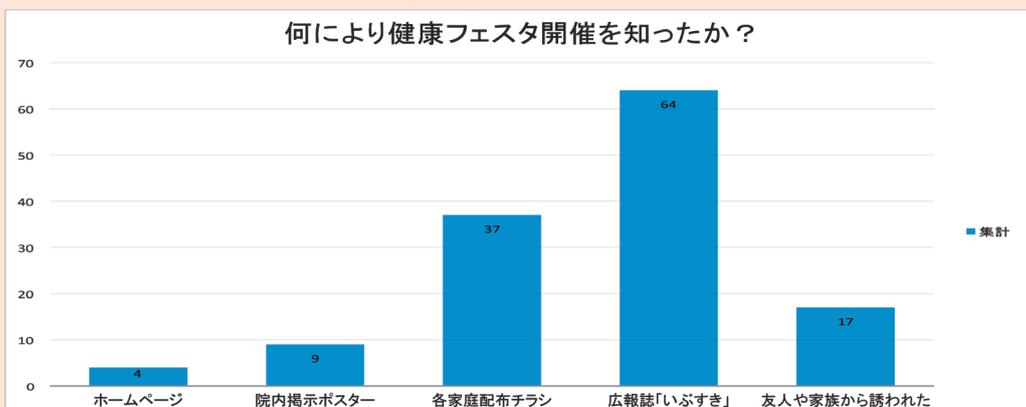
幅広い世代向けに様々なイベントを実施しましたが、参加者から、特に市民公開講座において今日のような話を沢山の市民に聞いてもらいたい、今度はガンのお話を聞かせてほしいといった意見を多数いただき、地域住民を対象とした公開講座は今までと違う当院を知ってもらうという意味で非常に有効な手段でありました。

参加いただいた方々のイベントに対するご意見(良いと感じたイベント)は、市民公開講座、ロコモ体操、救急蘇生術実演の順でした。今後も健康フェスタの内容を充実したものとするために職員一同頑張っております。



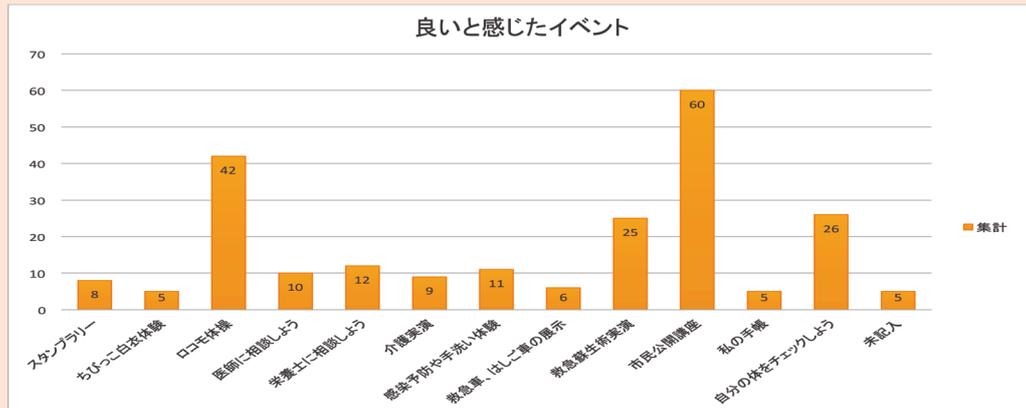
第8回健康フェスタアンケート結果

何により健康フェスタ開催を知ったか？



- ・複数回答可であったが、参加者の年代が60代以降ということもあり、広報誌「いぶすき」が64件と最も多かった。(66%)
- ・各家庭に配布したチラシについても37件で約4割あり、広報の方法としては有効であった。
- ・40代以下の参加者は12名いたが、そのうちの4名(33.3%)は当院のホームページを確認していた。
- ・JR駅(山川、指宿、二月田)やスーパーマーケットに掲示したポスターで開催を知ったというのはゼロであった。

良いと感じたイベント



- ・今回初めて企画した市民公開講座は60件で最も多かった。
- ・参加者の世代によるが、ロコモ体操、自分の体チェック、救急蘇生術実演が人気であった。



第8回健康フェスタに参加 ～介護体験を行いました～



4病棟師長 中村 道代

看護学生ボランティアの協力のもと「介護実演コーナー」で介護用品の展示やご家庭で即実践できる「介護のコツ」、いつまでも口からおいしく食べるための口腔体操などを、当院の看護師が実演指導を行い22名の参加がありました。

介護の実演内容

- ・体の不自由な方（片麻痺のある方など）の介護、着替えの仕方、移動の介助、食事の介助、口腔ケア・口腔体操



介護用品を紹介しながら実演しました

介護実演



口腔体操



【参加された方々のご意見】

介助した方

一人でスムーズにできた

こんな方法を知っていたら、介護に負担を感じることは少なくなるかもしれません



介助された方

苦痛もなく、不安もなかった

看護学生さんも一緒に介護の実演だけではなく、参加者の皆さまの声を直接聞く体験ができたようです。地域の皆さまの介護に対する興味関心の高さを知ることができ今後は、よりよい支援できるように技術の向上を目指し学習を重ねていく大切さを高められたようです。

